

計画期間

平成18年12月1日 ~ 平成23年3月31日

学校教育目標

人間愛豊かな心をはぐくみます。

- ・生命あるものに優しく接し、環境を大切にしようとする態度を養います。
- ・人権を尊重し、広い視点から問題を見つめ、差別のない社会を創造しようとする意識を高めます。
- ・地域の方をはじめ、多くの人とのふれあいを大切にする心を養います。
- ・自他のよさを認め合い、自分の考え、思いを表現し、自分らしい生き方を創ろうとする姿勢を伸ばします。

学校経営方針

自ら学び続ける意欲の向上と個に応じた指導の充実を目指します。
 小学校との協働による魅力ある小中一貫教育の実現を目指します。
 様々な国の人や文化等に触れることを通して、互いの良さを認め合い、尊重し合いながら、広い視野に立って物事を考え、自分の考えや意見を自ら発信し、進んで行動できる国際人の育成を目指します。
 家庭、地域との連携を図り、地域に開かれた、信頼される学校づくりを進めます。
 子ども一人ひとりが夢や希望をもって、自分らしさを発揮し生き生きと活動できる”子どもが主役の学校づくり”を進めます。
 地域との連携・協働による安全・安心な学校づくりを進めます。

指導の重点

- ・基礎・基本の確実な定着を図るために、“わかる授業・楽しい授業”を工夫し個に応じた指導の充実に努めます。
- ・9年間を見通し、新しい教育スパン(4, 3, 2)での小中一貫した教育課程の編成や全ての教育活動の基盤となる国語力の育成に努めます。
- ・実践的コミュニケーション能力の育成を図る英語教育や異文化や異なる文化をもつ人々を受容し、自らの国の伝統・文化についても理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする国際理解教育の充実に努めます。
- ・子どもとのふれあいを大切に、あらゆる機会を通してあいさつ、声かけを励行し、子どもとの信頼関係を基盤とした生徒指導の充実に努めます。
- ・地域の教育力を活かし、子どもの自己有用感や自尊感情を引き出し、高める指導の充実に努めます。
- ・防犯・防災に対する意識を高め、子どもの危機回避能力の育成に努めます。

改善の視点

取組目標

1 小規模校の特色を生かした魅力ある小中一貫教育や英語教育を推進する必要があります。

平成17年度に立ち上げた年3回の小中合同プロジェクトの内容を精選・充実し、連携型小中一貫教育の推進に努めます。
 (PSY研究の推進)
 小学校高学年の中学校体験授業を年間2回実施します。
 平成19年度より、小中教員の授業交流や合同研究会を実施します。
 小学校高学年の教科担任制の授業に、中学校教員が担任とT、Tで授業を行う取組を、可能な教科から順次実施します。
 (図工、音楽、英語、理科、算数)
 小・中9年間を見通した英語のカリキュラムを作成し、習熟度別指導による「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語のコミュニケーション能力の向上を図ります。(文科省研究開発学校)
 小学校5、6年と中学校1年のスムーズな接続を図った各教科のカリキュラムを作成し、平成21年度から実施します。
 ・年3回の英検の会場提供を行い、できるだけ全生徒が年間1回3級取得に向けて受検できる体制を整え、英語力の向上に努めます。
 ・メイフィールド校の生徒とのe-mailの交換など、英語生かした日常的な交流を活発化します。

2 生徒一人ひとりが基礎・基本を確実に身に付けることができるよう、個に応じた指導を充実する必要があります。

少人数指導(音楽、美術、技家)・習熟度別指導(英語、数学)の充実を図ります。
 長期休業中の教科別個別指導の充実を図ります。
 (各教科4回)
 全教科対象に教科教育相談を実施し、個に応じた指導の充実に努めます。
 全ての授業参観で授業評価を実施し、教師の指導力の向上に努めます。
 ・指導法等の改善に向けて、教師が互いの授業を見合うことで、生徒理解を基盤とした授業力の向上を図ります。(授業を見合う週間を年間2回設定)

3 子どもの体力低下傾向が続く中、生徒の体力の状況を把握し、向上を図っていく必要があります。

体育科の授業において、基礎体力づくりのトレーニングを帯時間で設定し、体力向上への継続的な取組を行います。
 スポーツテストの結果を長期的な視野に立って、個に応じた体力づくりの指針になるように有効に活用します。

| | |
|---|---|
| | <p>健康な体作りのために、ランチスペースを効果的に活用し、楽しい食事ができる環境づくりや授業の中で食事と健康とのかかりについての内容を充実し食育の推進を図ります。(1日3食の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的にスポーツに親しむ態度やマナーを身に付けるために運動部活動の充実を図ります。 |
| 4 生命を大切に作る心や他人を思いやる心など人間性豊かな生徒を育成するために、地域と連携した教育活動を進めるとともに、豊かな体験を通した心に響く道徳教育を推進する必要があります。 | <p>教育ボランティアなど地域の教育力の積極的な活用と地域とのスポーツ大会の内容の充実を図ります。</p> <p>年間35時間の道徳の授業の充実と授業公開を年1回行います</p> <p>区人権実践推進校として、道徳の授業を中心に目の前の生徒の課題解決を目指した取組と生徒が自分が大切にされていると感じることのできる環境づくりに努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域清掃の実施や地域の福祉施設などでの福祉・ボランティア体験学習の充実を図ります。 長期休業中等のボランティア活動への参加を積極的に呼びかけます。 |
| 5 生徒が自分の思いや考えを積極的に伝えることができるよう、コミュニケーションの基礎となる読解力の向上を図る必要があります。 | <p>全教科・領域で、様々な文章や資料を読んだり、それをもとに自分の考えや意見を分かりやすく説明したりする機会を多く設定し、「話す」「読む」「書く」活動の充実と言葉を大切に学習を進めます。</p> <p>読書の楽しさを知り、生活の中で習慣化できるように読書を教育活動の中に位置付け、活動の充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際平和スピーチの校内発表を実施するなど、「話す」「聞く」活動の充実を図ります。 |
| 6 友達との人間関係を築いたり、自分のよさを見つけ自己有用感をもったりすることが苦手な生徒が増えています。様々な人たちのふれあいを通して人間関係をつくり出す力や自らの生き方を考え自分にとって望ましい進路を主体的に選択できる力を育成することが必要です。 | <p>くすのき祭(文化祭)やスポーツ大会など地域とふれあう学校行事の様々な場面で、生徒が自分らしさを発揮できる機会をつくります。</p> <p>幼稚園、高校、外国の学校(メイフィールド校、横浜山手中華学校)との交流を積極的に進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年生での保育実習や小学校での教師体験など職業体験学習の充実を図ります。 |
| 7 安全、安心な学校づくりを進めるために、安全教育の充実を図り、子どもの危機回避能力をはぐくむ必要があります。 | <p>教職員の危機管理に対する研修の充実を図ります。</p> <p>中学1年で通学路の確認を含めた安全マップづくりを進めます</p> <p>安全管理についての講話を年1回実施します。</p> <p>登下校の見守りなど地域と連携した安全対策を進めます。</p> <p>小中と地域が連携した防災訓練の実施を目指します。</p> |

| | |
|---------------|---|
| 人材育成の考え方 | <ul style="list-style-type: none"> ベテラン職員の指導力や経験を活かしながら、若手職員の意欲や指導力を高める取組を進めます。 部活動が活発化するような人材確保を進めます。 小規模校であるが教科指導の充実を図るために、年齢層のバランスに配慮し各教科必ず一人の教員が確保できるように努めます。 |
| 平成20年度の重点取組項目 | <ul style="list-style-type: none"> 4月26日(土)と11月18日(火)に1日授業参観を実施し、全クラス道徳の授業公開と授業評価を行います。 小中一貫教育を推進するために、小中合同プロジェクトと小中教員の授業交流を積極的に行います。 教育ボランティアや地域との連携行事など地域とのふれあいを大切にした教育活動を展開します。 少人数指導、習熟度別指導を工夫し、個に応じた指導を充実する。 小中合同学校運営協議会を立ち上げ、学校評価を含めた学校運営のサポート機能を強化し、開かれた信頼される学校づくりを進めます。 |
| これまでの取組結果 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者のニーズに応え、野球部、陸上部など運動部、文化部の数を増やし、部活動の充実を図った。 土曜授業参観日を設定し、道徳の授業を全クラス公開し、授業評価を行い、指導改善に役立てた。 小学生(5,6年生)が中学校で1日勉強したり、理科、美術などの教員が小学校で担任とT.Tで指導したり、専任が修学旅行に引率したりすることで、児童理解が深まり、中一ギャップの解消につながった。 数学でSTを活用して、個に応じた指導の充実を図った。 2年生で2日間の職業体験を位置付け、キャリア教育の充実を図った。 |
| 教育懇話会の意見 | <ul style="list-style-type: none"> 小学校からの英語はコミュニケーションの手段として有効でよい。 英語教育だけでなく国語教育の充実も図ってほしい。 |

1 この計画は、横浜市教育委員会の定める「学校版マニフェスト(中期学校運営計画)」として策定したものです。 2 は重点項目